

愛知万博 20 周年記念事業

愛・地球博20祭

開催期間 2025年3月25日～9月25日

愛知万博20周年をみんなで祝おう!

愛・地球博20祭記念のシンボル「地球の樹」(写真は全て本誌編集部 町田撮影)

2005年愛知万博(日本国際博覧会、愛・地球博)開催から20年。1851年、ロンドンで第1回万国博覧会が開催されて174年。大規模博として日本では1970年の大阪万博、その35年後に愛知万博、そして今年、大阪・関西万博が4月13日に開幕し話題となっている。

愛知では現在、愛知万博20周年記念事業として、『愛・地球博20祭』イベントが長久手市の愛・地球博記念公園(モリコロパーク)で3月25日からスタートしている。20年前の愛知万博を振り返るとともに、現在開催中の『愛・地球博20祭』イベントをご紹介します。

～ 2005年 愛・地球博 ～

愛知万博は2005年3月25日～9月25日に長久手市、豊田市、瀬戸市の名古屋東部丘陵で開催。テーマは「自然の叡智」(Nature's Wisdom)。当初計画では入場者数1,500万人だったが、実績は2,205万人。会場建設費は1,350億円の計画から1,453億円に膨らんだが、差額は現物寄付で賄われ、結果的に約140億円の黒字だった。共立総合研究所の試算によると、万博による東海3県の経済効果は1兆2,800億円であった。

2005年、国内ではどんな出来事があったか。当時の小泉純一郎首相が中心となり、郵政民営化法案可決が決定。一部建築物で耐震強度偽装が発覚し社会問題に。兵庫県のJR福知山線で脱線事故があり多くの犠牲者が出るなどした。

世界では前年スマトラ島沖地震が発生、インド洋大津波による被害があり2005年は各国が復興支援に取り組んでいた。ロンドンでは地下鉄やバスの同時多発爆破があった。

愛知万博開催当初は交通手段としてはパーク&ライド、最寄駅からのシャトルバス、地下鉄終点の名東区藤が丘駅からリニモ(リニアモーターカー)に乗り換えという長久手メイン会場への3パターンの方があった。さらにもうひとつの手段として瀬戸会場からゴンドラで長久手会場に移動するという方法も。

しかし行き着く先は全てメイン会場入り口になってしまうため、入場口では大混雑の行列ができ、しかも手荷物検査で飲食物が没収されるという事態が発生。この措置は、テロ対策や食